

		自己評価		学校関係者評価	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見	次年度への課題と今後の改善方策
[生活習慣の確立] 生活習慣の確立ができておらず、学習に対する目的意識が低い生徒が多い。	(全体レベル) 全教職員の共通理解のもと、家庭・専門機関などとの連携を密にして、信頼感に満ちた生徒指導を推進する。 (下位組織レベル) ①いじめの早期発見・対応 [生徒指導課] ②交通安全教育の徹底 [生徒指導課] ③欠席者の減少 [教務課] ④生活習慣の確立 [厚生環境課] ⑤実践力を育む人権教育 [人権教育課]	評価指標 ①-1 挨拶運動実施率 100% ①-2 個人面談の実施回数 3回以上 ②-1 通学使用車両点検回数 3回 ②-2 交通事故(加害者)発件数 1件 ③-1 出席率 90% ③-2 生徒の授業中での充実度 90% ③-3 要補講生徒数の割合 30% ④ 肥満傾向の生徒数割合 12% ⑤ 人権教育研修会の実施 12回	評価指標の達成度 ①-1 毎日、挨拶運動を実施した。 ①-2 毎学期において個人面談を実施した。 ②-1 毎学期において車両点検を実施した。 ②-2 交通事故の発生は1件だった。 ③-1 12月末までで89.1%だった。(昨年度86.9%) ③-2 「とても充実」「まあまあ充実」をあわせて96.0%だった。(昨年度85.9%) ③-3 40.0%だった。(昨年度51.3%) ④ 軽度～中等度肥満の生徒に個別指導を実施した。肥満傾向の生徒数の割合が年度当初15.6%から変化はなかった。 ⑤ 人権教育研修会の実施 12回	総合評価 (評定) B (所見) 「出席率」「授業中の充実度」「要補講生徒数の割合」の指標で、昨年度より改善が見られたが、まだ目標が達成できていない指標もある。特に要補講生徒数が目標に達していないことが、現在の定時制課程の課題であると感じる。少ないながらも個性豊かな生徒たちであるが、逆に自然とそれぞれの個性を認め合っており人間関係上の大きなトラブルは発生していない。	○中学生の進路指導の中で、不登校の生徒や学力不足の生徒の進路として、定時制を勧めている現状がある。そのような生徒たちが、定時制で学校生活を頑張っていることを聞いて大変嬉しい。今後もよろしくお願いたい。 ○中学時代に不登校だった生徒も多い中、毎日登校時に声をかけることや会話を交わすことで、生徒とのコミュニケーションも図れ、自ら挨拶をする生徒も増えてきている。面談だけでなく、平日頃から保護者と連絡を密に取り、信頼関係を築き、相談しやすい環境を作りたい。 ○交通事故(加害者)が1件あった。自動車やバイクを運転する生徒も在籍するため、交通事故を0(ゼロ)を目指し、交通安全指導の徹底を図りたい。 ○ほとんどの生徒が「留年するかしないか」を気にしており、補講が多少出る程度は気にしていない生徒がいる。落ち着いた日々の生活習慣の上に、夕刻より学校に来て地道に継続して学ぶことの価値を、生徒たちに伝えていきたい。
		活動計画 ① 挨拶や面談を通じて、生徒との信頼関係を構築し、相談に乗りやすい体制を構築する。 ②-1 原付や乗用車などの通学使用車両の点検を行い、整備不良車、違法改造車の使用を禁止する。 ②-2 学校周辺の巡視を徹底する。 ③-1 欠課時数が基準を超えた時の補講を徹底する。 ③-2 魅力ある授業づくりを実践し、出席率の向上につなげる。 ④ 生活習慣改善プロジェクトを実施する。 ⑤ 毎月、教員対象の人権教育研修会を実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 毎日の挨拶運動や、個人面談を通して生徒との信頼関係を構築できた。 ②-1 毎学期において車両点検を行い、整備不良の車両を改善するよう指導することができた。 ②-2 生徒指導課にて学校周辺の巡視を行った。ゴミのポイ捨て等の苦情があった。 ③-1 要補講生徒全員が期間内に補講を完了させる見込みである。 ③-2 89.1%で昨年度より2.2%上昇した。 ④生活習慣改善プロジェクトの一環として、生活リズムチェック、健康力アップのための個別シートなどを実施、活用し、生徒自身の健康への意識が23%高まった。 ⑤人権教育研修会を回覧形式も含めて12回実施した。		
[進路意識の醸成] 進路に対する意識が希薄な生徒が多く、多様な生徒に即した進路指導と関係機関との連携・協力が必要である。	(全体レベル) (i) 生徒に卒業後の目標を持たせ、生徒の基礎学力を定着させるとともに、「主体的・対話的で深い学び」の推進を図る。 (ii) 定時制単独の求人を獲得するとともに、キャリア教育を推進する。 (下位組織レベル) ①個性・能力の伸張と適切な進路サポート [進路指導課] ②進路情報の収集と確実な伝達 [進路指導課] ③総合的な探究(学習)の時間の中で、キャリア教育を実施 [進路指導課] ④学習意欲の喚起と基礎学力の定着	評価指標 ① 校内進路説明会実施回数 2回 ② ハローワーク求人情報提供 90% ③ 進路講演会実施回数 1回 ④-1 教師の授業が分かりやすいという生徒 95% ④-2 基礎学力コンペの全学年平均点 50点 ⑤ 各学校行事の広報活動 実施後5日以内	評価指標の達成度 ① 2回とも予定通りに実施することができた。 ② ハローワークからの求人を毎月生徒に情報提供した。 100% ③ 予定通りに実施することができた。 ④-1 授業が分かりやすいという生徒は93.4%。 ④-2 令和5年度の平均点は44.8点、令和6年度の平均点は46.6点であった。全学年平均点は目標には届かなかったが、昨年よりも1.8点上昇した。 ⑤ 活動風景の写真をコメントとともに3日以内にホームページにアップロードできた。	(評定) B (所見) 授業が分かりやすいと感じている生徒は9割を超えているものの指標には届かなかったが、昨年度よりわずかに上昇している。進路関係の行事や取組は今年は進路指導主事を中心に充実したも	○定時制でも、高校を卒業するだけでよいという考えではなく、卒業後の生き方を見据えた進路指導を継続してほしい。 ○進路説明会や進路講演会は、生徒にとって視野を広げる貴重な機会となっており、4年間で様々な内容に触れられるよう、講師の選定に留意していきたい。 ○長年続けている基礎学コンペについて見直しを図りたい。就職試験で学科試験を課されることが激減している中で、基礎学力の定義について再考し、生徒たちの生きる力になるような機会になるよう工夫していきたい。 ○日中のアルバイトによって、視野を広げたり対話力をつけたりしている生徒も多いが、様々な理由で学校だけに通っている生徒もいる。次年度はとくしま地域若者サポートス
		活動計画 ①-1 校内進路説明会を計画的に実施する。 ①-2 個別に進路相談、ガイダンスを実施する。 ②-1 ハローワーク、全日制就職課と連携しながら定時制単独の求人を獲得すべく職場訪問を計画的に実施する。	活動計画の実施状況 ①-1 6月に個別と2月に一斉の進路説明会を計画した。 ①-2 各学期ごとの担任の面談後に、進路相談を受けた。 ②-1 ハローワーク鳴門、全日制就職課と連携し、職場訪問を実施し、定時制の単独の求人票を獲得した。		

	<p>[教務課]</p> <p>⑤HPを通じて、学校の情報を発信 [情報課]</p>	<p>②-2 進路情報の必要な生徒に対し、個々のケースに応じた個別対応を実施する。</p> <p>③-1 外部講師を活用したキャリア教育を実施する。</p> <p>③-2 運転免許など、就職にも有利である各種資格取得を奨励する。</p> <p>④-1 読み書き計算といった基礎・基本的な学力の底上げを図る。</p> <p>④-2 3年次における進路意識の向上と学習意欲の拡大に努める。</p> <p>⑤ 各学校行事終了後、活動記録をHPに速やかにアップする。</p>	<p>②-2 ハローワーク鳴門への訪問、求人票の収集、情報交換を行い、卒業予定の生徒以外に対しても個別に支援を行った。</p> <p>③-1 サカイ引越センターから講演をいただいた。</p> <p>③-2 運転免許を中心に資格の有用性について機会を見て指導を繰り返した。</p> <p>④-1 数学や国語の時間を中心に、基礎・基本的な読み書き計算に取り組んだ。</p> <p>④-2 進路関係の行事や個別の進路相談への対応を通じて進路意識の高揚に努めた。</p> <p>⑤ 比較的速やかに発信することができた。</p>	<p>のとなっており、基礎学力の向上のために行っている基礎学コンペの平均点は上昇、改善が見られた。</p>	<p>ーションとも連携して、在学時から働くことに触れ、卒業後も仕事が長続きするような生徒を一人でも多く増やしていきたいと考える。</p> <p>○定時制の生徒たちも、創意工夫しながら様々な活動に取り組んでいることをホームページを通じて知って頂けるよう、内容の充実と共に発信していきたい。</p>
<p>[主権者意識向上]</p> <p>主権者意識を高める教育を推進する。</p>	<p>(全体レベル)</p> <p>主権者意識を高める教育を推進するため、公民科をはじめとした各教科の授業やホームルーム活動、学校行事等の充実を図る。</p> <p>(下位組織レベル)</p> <p>①自ら考え、自ら判断するための、基本的な事項を理解する。 [公民科]</p> <p>②主権者意識を高めるために、授業内容、行事等の精選や、教育課程の作成を行う。</p> <p>[教務課]</p> <p>③HRの時間を活用し、主権者意識を高める活動や、学校行事を実施する。 [特別活動課]</p>	<p>評価指標</p> <p>① 主権者教育に関する特別授業の後、アンケートを実施し、「政治や選挙への関心が高まった」と回答した生徒の割合 65%</p> <p>② 主権者教育に関する特別授業の回数 1回</p> <p>③ 教職員対象の研修の回数 1回</p> <p>活動計画</p> <p>① 毎時間、ニュースを発表させることで、時事問題に対して、主権者として自分の考えを持ち、それを表現できるように努める。</p> <p>② 学校行事や教育課程の見直しを行い改善に努める。</p> <p>③-1 HRの時間に、グループでの話し合いなどを通じて、自分の意見や考えを他人に伝えられるように努める。</p> <p>③-2 外部講師の招聘など、専門家を活用しながら主権者意識の向上に努める。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 主権者教育に関する特別授業の後、アンケートを実施し、「選挙に行こうと思った」「民主主義への理解が深まった」と回答した生徒の割合 87%</p> <p>② 主権者教育に関する特別授業の回数 1回</p> <p>③ 教職員対象の研修の回数 1回</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>① 毎時間、ニュースを発表させることで、時事問題に対して、主権者として自分の考えを持ち、それを表現できるように実施した。</p> <p>② 学校行事を実施する際に、実施曜日が重ならないように配慮した。</p> <p>③-1 ③-2 今年度は鳴門教育大学の原田昌博(教授)を招き、全教職員と全学年の生徒に対して講義をして頂いた。講義は、</p> <p>①民主主義とは？</p> <p>○統治権力と社会の間に双方向の関係が成立していること</p> <p>○法を課される側が、それをつくる場に参加できること</p> <p>②日本国憲法を読む → 現在の社会の基盤(日本国憲法の源流は？)</p> <p>○第11条・第13条・第14条・第19条・第21条・第23条・第24条・第25条・第26条</p> <p>③ 出発点としての社会契約論</p> <p>○ホッブス・ロック・ルソーの思想から</p> <p>④フランス革命(=市民革命)</p> <p>○革命前の社会 → シェイエス「第三身分とは何か」 → フランス革命 → 市民革命の到達点</p> <p>⑤ ワイマル憲法の光と影</p> <p>○ワイマル憲法を読む → 社会権(20世紀の人権の登場)</p> <p>○ワイマル憲法下の選挙結果から → 民主主義は(容易に)暗転する → 投票率が上がるだけが大切なのではない → 市民革命の限界</p> <p>教員・生徒ともに歴史から民主主義と選挙について学ぶことを通して、自分たちの選挙制度について理解を深めることができた。</p>	<p>(評定)</p> <p>A</p> <p>(所見)</p> <p>講演会や授業を通して、主権者意識の醸成を図った。昨年、新型コロナウイルスの感染症指定が5類に引き下げられたことをうけ、新たな生活様式や価値観が国民一人一人に問われるなか、主権者意識を更に試された年となった。教員対象の主権者教育研修会は、生徒対象の講演会と併用する形で実施し、私たちが生きる民主主義社会における諸問題について、生徒とともに考え、理解を深めることができた。</p>	<p>○行事だけでなく、普段の授業の中でも、社会に出たときに必要になってくる税金の話などを、折に触れてしていただきたい。</p> <p>○教員数が少ないというハンディがある中、外部講師を招いての一斉授業は、生徒たちに新たな視点を与える貴重な機会となっている。少々難しい内容も多いが、生徒たちの実情を伝えながら、少しでも興味を持って聞いてもらえるよう、講師の方との連絡・相談をして、よりよいものになるよう計画していきたい。</p>

* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった